

子宮筋腫に対するUAEの現況

企画・編集 田島廣之 日本医科大学武蔵小杉病院 血管内・低侵襲治療センター

序説

子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術(uterine arterial embolization : UAE)は、1995年にRavinaらにより報告されて以来、諸外国では積極的に行われ、非手術治療の1つとして優れた成果が報告されてきた。一方、わが国ではさまざまな理由から永く健康保険適用外診療を余儀なくされていたが、2014年、子宮筋腫を適応症としたビーズ球状塞栓物質の認可により、ようやく子宮筋腫に対してUAEの保険診療が行えるようになった。

しかしながら、臨床の現場へは、本治療法は十分には浸透していないように思われる。

今回、現場の運用、手技のコツなどの実際について、大学病院、市中病院、クリニックを代表するエキスパートにそれぞれまとめていただいた。産婦人科医と放射線科医の緊密な連携が何より不可欠であることが強調されている。いずれの先生方も記述はきわめて具体的であり、説得力に富んでいる。日常診療のよい指標として、ぜひ参考にしていただきたい。

田島廣之

- | | |
|-------------------|-----|
| 1. 大学病院における運用の実際 | 854 |
| 2. 市中病院における運用の実際 | 859 |
| 3. クリニックにおける運用の実際 | 863 |